

Sybase® IQ クイック・スタート

ドキュメント ID : DC01146-01-1520-01

改訂 : 2010 年 4 月

トピック	ページ
概要	2
デモ・データベース	2
テーブル名	2
IQ デモ・データベースの作成と使用	3
IQ デモ・データベースのマルチプレックスへの変換	9
IQ Agent の起動	9
マルチプレックスへの変換	11
マルチプレックス・サーバの追加 (手動による方法)	24
マルチプレックス・サーバ定義の作成	24
マルチプレックス・サーバの同期と起動 (手動による方法)	26
テンポラリ・ストア・ファイルの追加 (手動による方法)	28
データのロード	29

概要

このマニュアルでは、IQ demo データベースの作成およびクエリ方法について説明します。データベースは、選択したディレクトリ内にいくつでもコピーを作成し、いつでも再作成できます。

demo データベースを使用して、IQ マルチプレックスを作成および使用することもできます。IQ マルチプレックスとは、共有ディスク・クラスタ経由で同じ IQ ストアにアクセスする複数の IQ サーバを指します。デモ用に、複数の IQ サーバで共有されるファイル・システム・ファイルを使用できます。この設定では、IQ マルチプレックス環境をシミュレートします。

データベースをクエリまたは更新するには、Interactive SQL (dbisql) または Sybase Central™ のいずれかを使用します。IQ サーバのインストールにはこの両方が付属しています。

このマニュアルにはフォーマット用に文字が追加されているため、コマンドをこのマニュアルから直接カット・アンド・ペーストしないことをおすすめします。コマンドを手動で入力するか、メモ帳または vi にカット・アンド・ペーストするか、あるいはフォーマット文字列を削除するように編集してから、コマンド・ラインにコピー・アンド・ペーストします。

デモ・データベース

このデモ・データは、想像上のスポーツ用品会社に対応しています。デフォルトで `iqdemo` というデータベースが Sybase® IQ 15.2 用に更新されています。

テーブル名

旧エディションからアップグレードする場合、次の表のリストで `iqdemo` データベースの最新のテーブル名を確認してください。スクリプトまたはアプリケーションを更新するには、このテーブルを使用します。

表 1: デモ・データベースのテーブル名

12.7 での名前	15.2 での名前	15.2 でのテーブル所有者
contact	Contacts	GROUPO
customers	Customers	GROUPO
department	Departments	GROUPO
empl	empl	DBA
employee	Employees	GROUPO
fin_code	FinancialCodes	GROUPO
fin_data	FinancialData	GROUPO
product	Products	GROUPO
sale	sale	DBA
sales_order_items	SalesOrderItems	GROUPO
sales_order	SalesOrders	GROUPO

IQ デモ・データベースの作成と使用

- 1 Sybase IQ サーバをインストールします。『Sybase IQ インストールおよび設定ガイド』を参照してください。
- 2 demo データベースを作成します。
 - UNIX の場合
 - IQ インストール・ディレクトリに移動します。
 - `cd <IQ install directory>/IQ-15_2`
 - IQ 環境を参照します。
 - `bash` または Korn (ksh) シェルの場合は、次のように入力します。
`.IQ-15_2.sh`
 - `tcsh` または C (csh) シェルの場合は、次のように入力します。
`source IQ-15_2.csh`
 - まだ作成されていない場合は、新しいデータベースを格納するためにディレクトリを作成します。このデモの規則に従い、ディレクトリは `/myiqdemo` です。
 - データベースの作成先のディレクトリに移動します。
 - `cd /myiqdemo`
 - 次のコマンドを実行します。
 - `$IQDIR15/demo/mkiqdemo.sh`

- **Windows** の場合

- コマンド・ウィンドウを開きます。
 - [スタート]-[プログラム]-[MS-DOS プロンプト]をクリックするか、[スタート]-[ファイル名を指定して実行]をクリックし、cmd と入力します。
- まだ作成されていない場合は、新しいデータベースを格納するためにディレクトリを作成します。このデモの規則に従い、ディレクトリは `C:\myiqdemo` です。
- 次のいずれかの方法を使用して、データベースの作成先のディレクトリに移動します。
 - `c:`
 - `cd C:\myiqdemo`
- 次のコマンドを実行します。

```
"%ALLUSERSPROFILE%\SybaseIQ\demo\mkiqdemo"
```
- 事前に定義された場所で demo データベースを作成するには、次をクリックします。

```
[スタート]-[プログラム]-[Sybase]-[Sybase IQ 15.2]-[Sybase IQ デモ・データベースの起動]
```

をクリックします。
- データベースの作成をカスタマイズするためのオプションをすべてリストするには、次を実行します。
 - **UNIX** の場合

```
$IQDIR15/demo/mkiqdemo.sh -help
```
 - **Windows** の場合

```
"%ALLUSERSPROFILE%\SybaseIQ\demo\mkiqdemo" -help
```

IQ データベースは複数のストアから構成されています。IQ ストアへのパスには相対パスか絶対パスのいずれかを指定できます。

相対パスまたは絶対パスを使用して demo データベースを作成できます。demo データベースをコピーまたは移動する場合は、相対パスを使用した方が簡単です。これは、`mkiqdemo` ではデフォルトのオプションです。

注意 重要: demo データベースをマルチプレックスに変換する場合は、絶対パスを使用する必要があります。

- **UNIX** の場合
 - データベースの作成先のディレクトリに移動します。


```
cd /myiqdemo
```
 - **-absolute** スイッチを使用します。

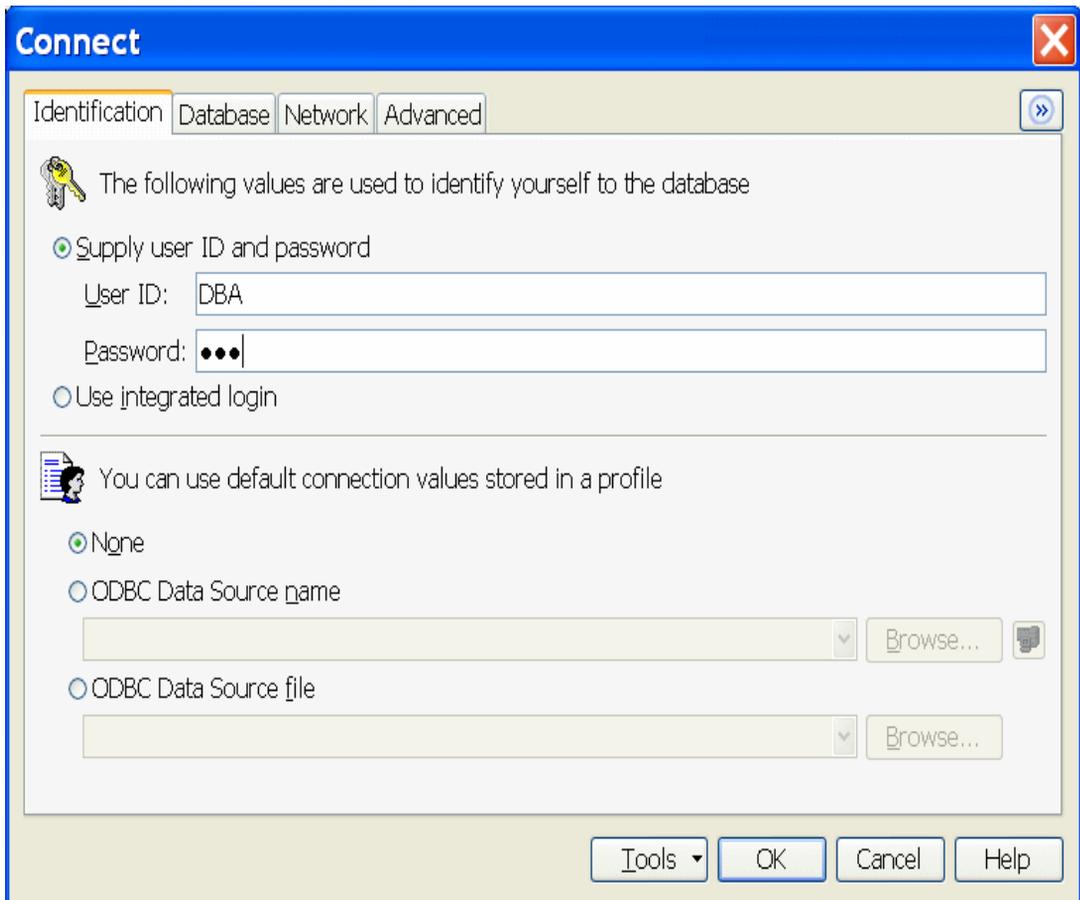

```
$IQDIR15/demo/mkiqdemo.sh -absolute
```
 - **Windows** の場合
 - コマンド・ウィンドウを開きます。
 - [スタート]-[プログラム]-[MS_DOSプロンプト]をクリックするか、[スタート]-[ファイル名を指定して実行]をクリックし、**cmd** と入力します。
 - データベースの作成先のディレクトリに移動します。


```
c:
cd %myiqdemo
```
 - 次のコマンドを実行します。


```
"%ALLUSERSPROFILE%\SybaseIQ%demo%mkidemo" -
absolute
```
- 3 SQL Anywhere® または以前のバージョンの Sybase IQ が Sybase IQ 15.2 と同じマシンまたはサブネットに存在する場合は、*iqdemo.cfg* 設定ファイルを編集します。デフォルトで、両方の製品はデフォルトのポート 2638 を使用するため、IQ Server のポートを変更する必要があります。
- さらに、共有システムに関して混乱を避けるために、ユーザ名をサーバ名に追加してユニークに設定します。たとえば、ユーザ名が *jsmith* である場合は、*jsmith_iqdemo* をサーバ名として **demo** データベースのサーバ名に指定できます。
- iqdemo.cfg* ファイルは、**demo** データベースと同じディレクトリ内に作成されます。このファイルを編集し、起動パラメータを変更できます。このファイルをコピーし、起動パラメータを変更することで、データベースの設定ファイルを作成することもできます。
- 4 IQ サーバを起動します。設定およびデータベース・ファイルが存在するディレクトリに移動し、次の形式でコマンドを発行します。
- ```
start_iq @configuration_file.cfg dbname.db
```
- たとえば、**demo** データベースを起動するには、次のコマンドを入力します。
- ```
start_iq @iqdemo.cfg iqdemo.db
```

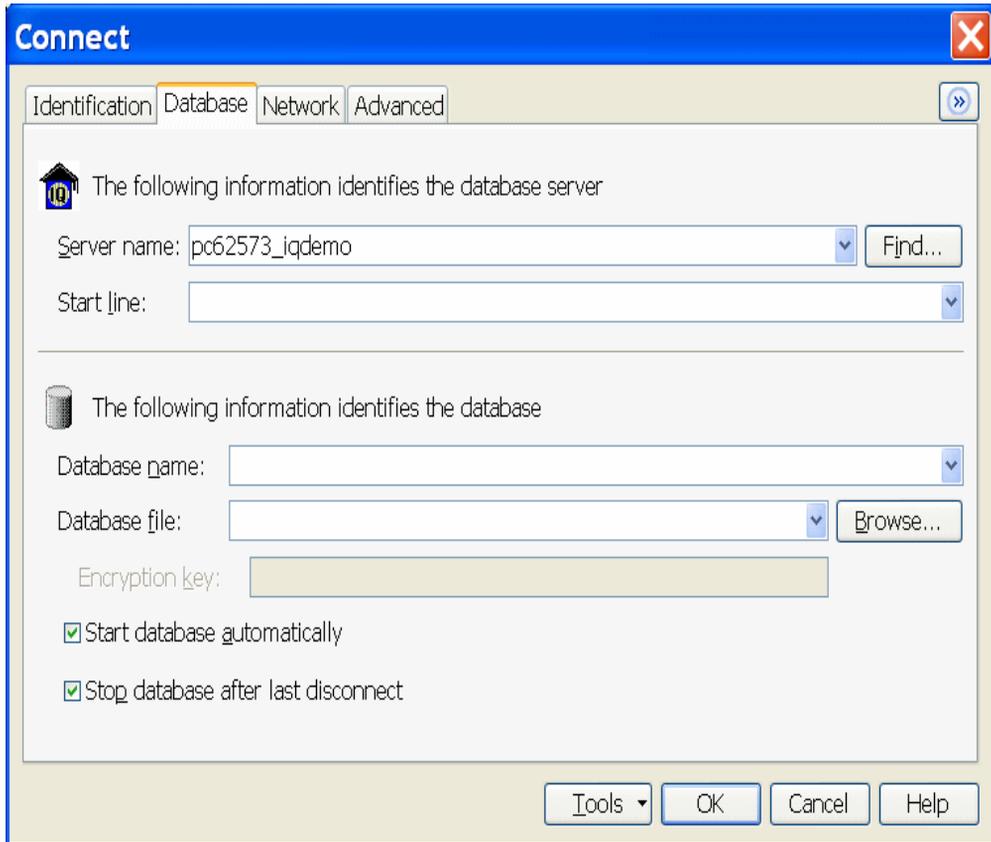
- 5 Interactive SQL (クエリ・ツール) を起動します。
 - UNIX の場合、システムのプロンプトで `dbisql` と入力します。
 - Windows の場合、[スタート] - [プログラム] - [Sybase] - [Sybase IQ 15.2] - [Interactive SQL] をクリックし、コマンド・シェルに `dbisql` と入力するか、[スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択し、`dbisql` と入力します。
- 6 demo データベースに接続します。
 - [接続] ダイアログで、ユーザ ID として **DBA**、パスワードとして **sql** をそれぞれ入力します (この例は Windows の出力を示しています)。

図 1: [接続] ダイアログ



- [データベース] タブで、[検索] をクリックし、サーバ名を選択します。サーバ名がリストされていない場合は、サーバ名を入力してから [OK] をクリックします。

図 2：サーバの検索

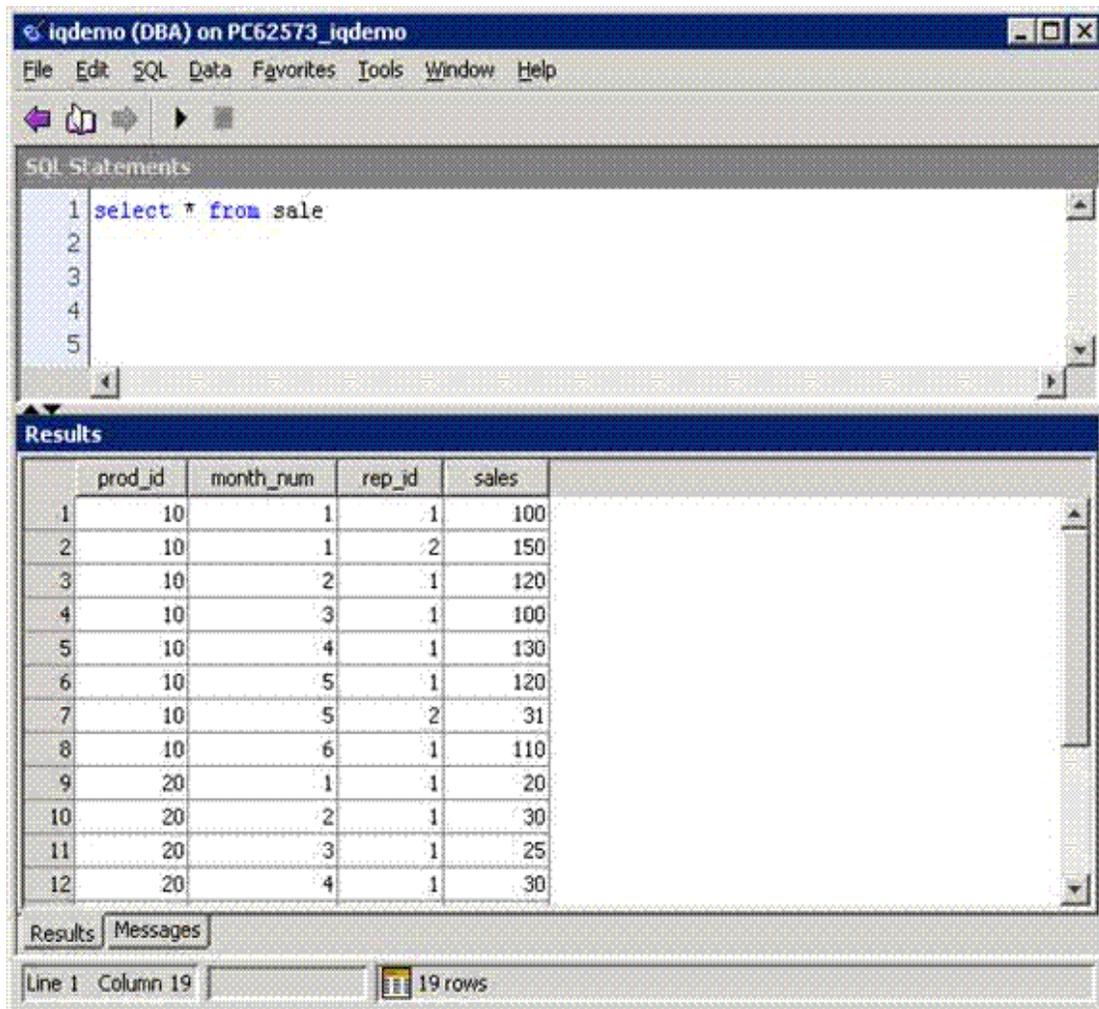


- 7 テスト・クエリを実行し、**sale** テーブル内のカラムを表示します。一番上のウィンドウ ([SQL 文]) に、次のコマンドを入力します。

```
SELECT * FROM sale
```

[実行] (ボタン・バーの右向きの三角形) をクリックするか、[F5] キーを使用します。

図 3: テスト・クエリの実行



- 8 Interactive SQL を終了するには、[ファイル]-[終了]を選択するか、quit と入力し [実行] をクリックするか、または [F5] キーを使用します。

IQ デモ・データベースのマルチプレックスへの変換

デモ・データベースが絶対パス (-absolute オプション) を使用して作成されたかどうかを確認します。demo データベースに相対パスが使用されている場合は、マルチプレックスを作成できません。

シングル・サーバ (IQ demo データベース) をマルチプレックス・サーバに変換するには、セカンダリ・サーバを追加します。その場合は、Sybase Central を使用して操作を行います。変換後は、Sybase Central を使用してマルチプレックスを管理できます。マルチプレックス内のすべてのサーバが、1 つの [マルチプレックス] フォルダに表示されます。

IQ Agent の起動

Sybase Central を起動する前に、IQ サーバを実行するマシン上で IQ Agent を起動します。

UNIX の場合

UNIX の場合は、S99SybaseIQAgent15 スクリプトを使用してエージェントを起動します。

- S99SybaseIQAgent15 コマンドは、デフォルトのポート 1099 でエージェントを起動します。
- S99SybaseIQAgent15 -port 3871 コマンドは、ポート 3871 でエージェントを起動します。

エージェントが実行されていることを確認するには

次のコマンドを実行します。

- stop_iq-agent

たとえば、次のエージェントは 'smith' というユーザによって所有されています。

```
##owner          PID      Started      CPU Time      Additional Information
-----          -
1: smith         15549     Feb. 18      10:38         PORT:2008
java -Diq.agent=/sun625742/users/smith/sybase/IQ-15_2/java/IQAgent1520.jar -D
```

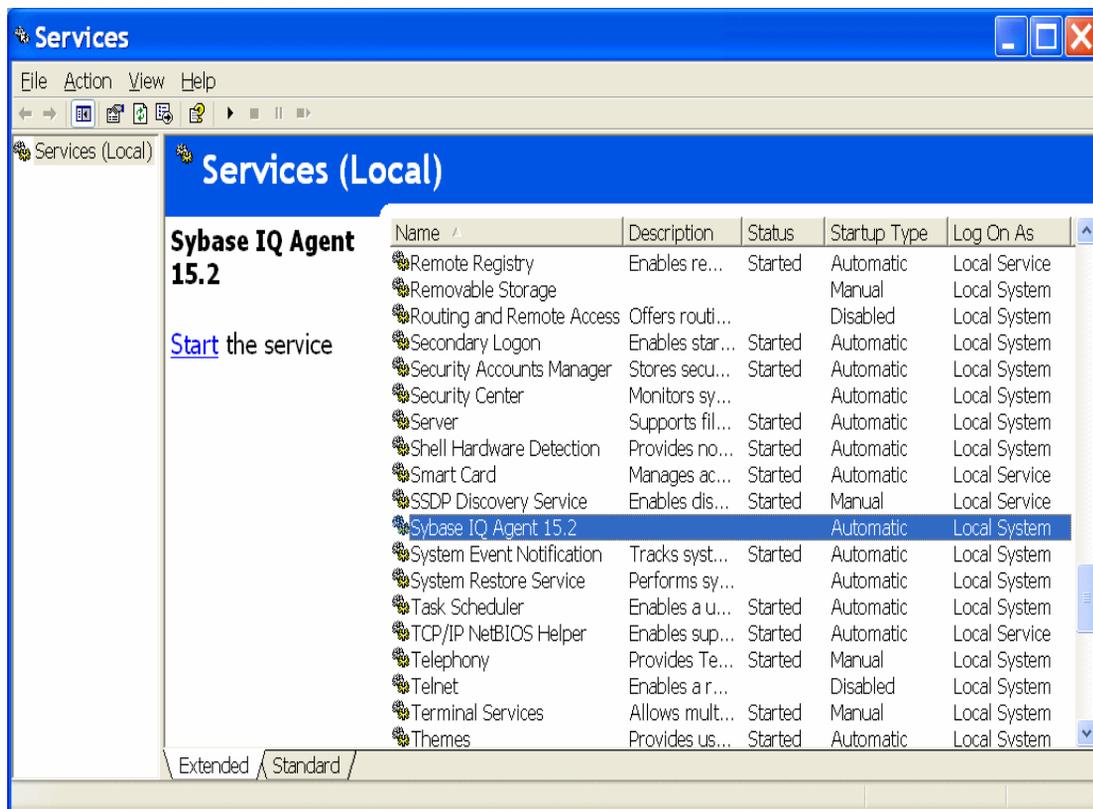
エージェント・ログを確認するには

エージェント・ログ・ファイルは `$IQDIR15/logfiles/SybaseIQAgentNNNN.MMM.log` です。ここで、NNNN はポート番号、MMM は連続値をそれぞれ表します。環境変数 `IQLOGDIR15` が設定されている場合、エージェント・ログ・ファイルは `$IQLOGDIR15` ディレクトリにあります。

Windows の場合

Windows では、エージェントはサービスとして実行するように設定されています。Services Manager アプリケーションを起動し、エージェントが実行していることを確認します。

図 4 : Services Manager



エージェント・ログを確認するには

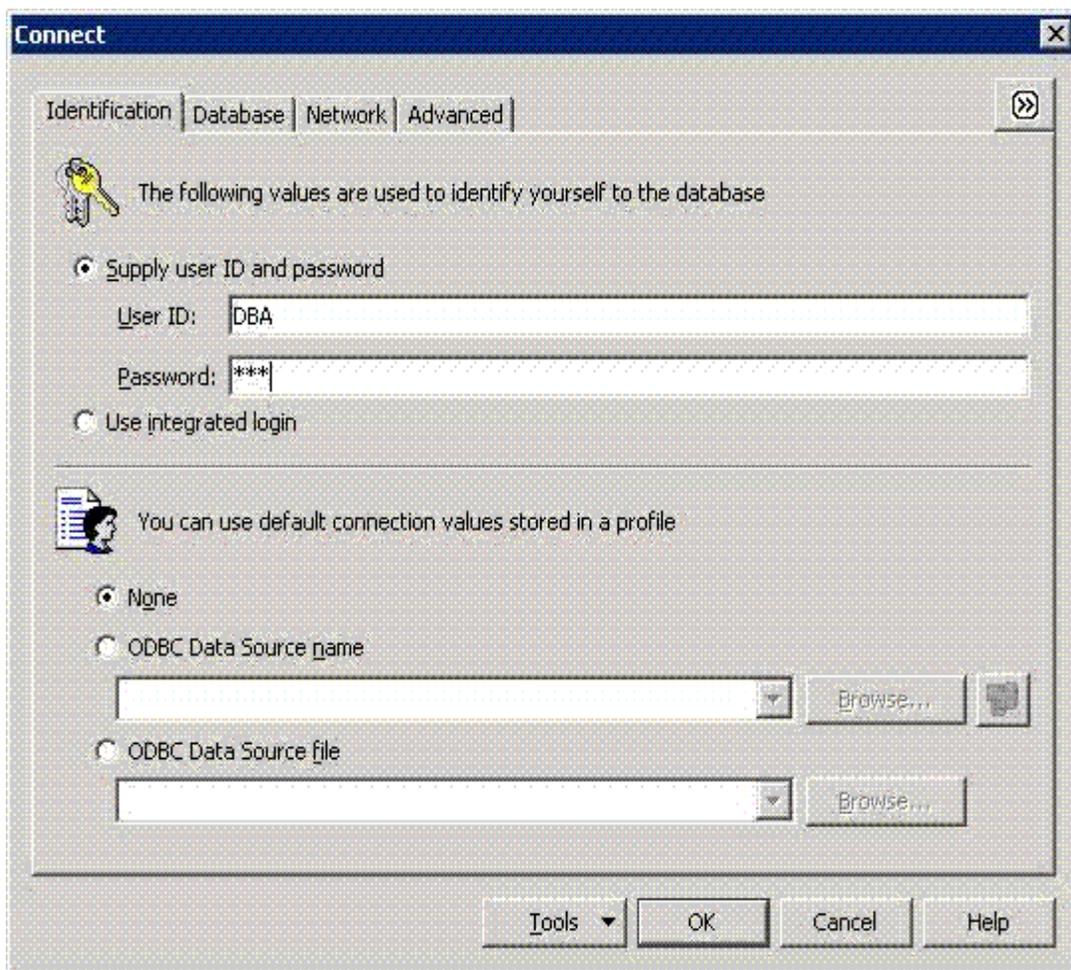
Sybase IQ のインストール後に再起動した場合、エージェント・ログ・ファイルは `%ALLUSERSPROFILE%\%SybaseIQ%\logfiles\%SybaseIQAgent.NNN.log` です。ここで、NNN は連続値を示します。それ以外の場合は、エージェント・ログ・ファイルは `%SYBASE%\%IQ-15_2\logfiles` にあります。環境変数 `IQLOGDIR15` が設定されている場合、エージェント・ログ・ファイルは `%IQLOGDIR15%` ディレクトリにあります。

マルチプレックスへの変換

❖ IQ デモ・データベースのマルチプレックスへの変換

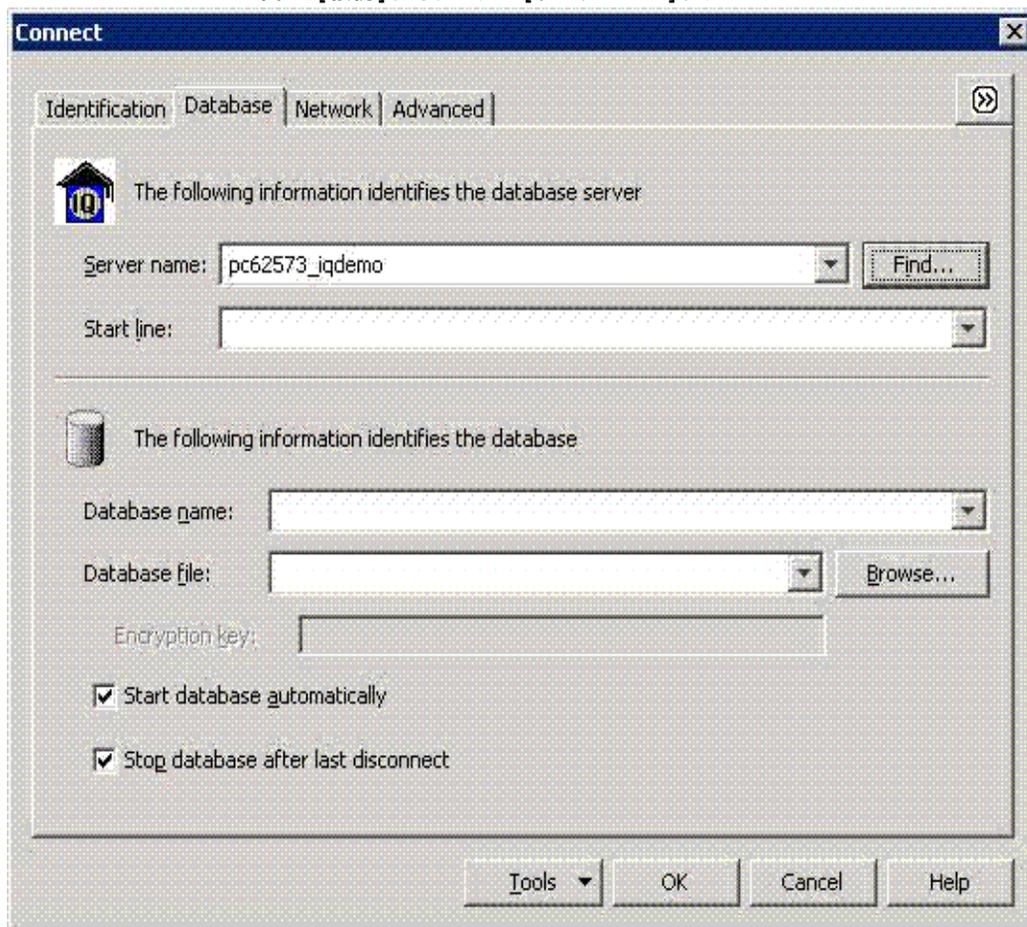
- 1 Sybase Central を起動します。
 - UNIX の場合、システムのプロンプトで **scjview** と入力します。
 - Windows の場合、[スタート] - [プログラム] - [Sybase] - [Sybase IQ 15.2] - [Sybase Central] をクリックします。
- 2 [接続] - [Sybase IQ 15 に接続] をクリックします。[接続] ダイアログで、ユーザ ID に **DBA**、パスワードに **sql** をそれぞれ入力します。

図 5 : [接続] ダイアログの [ID] タブ



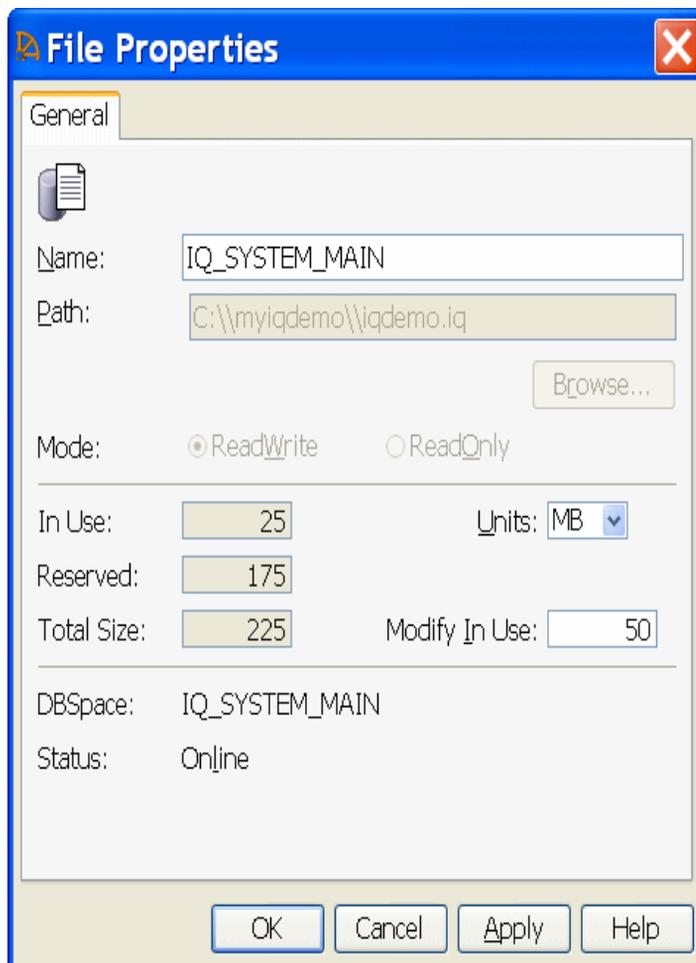
[データベース] タブで、[検索] をクリックし、サーバ名を選択します。サーバ名がリストされていない場合は、サーバ名を入力してから [OK] をクリックします。

図 6 : [接続] ダイアログの [データベース] タブ



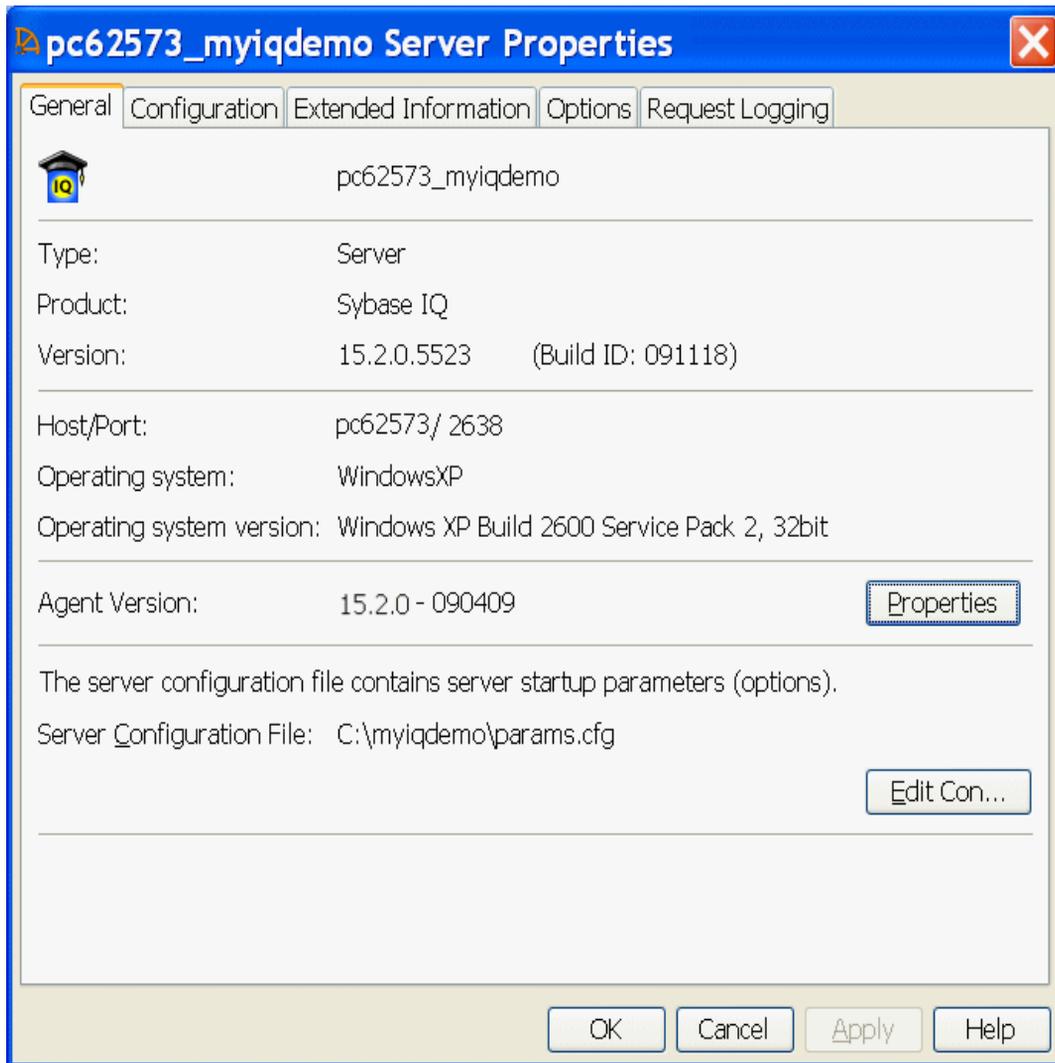
- 3 IQ_SYSTEM_MAIN でファイル・サイズを増やします。
フォルダ・ビューで、[DB 領域] フォルダをダブルクリックします。次に、[IQ_SYSTEM_MAIN] フォルダを選択します。[ファイル] タブで、[IQ_SYSTEM_MAIN] ファイルを右クリックし、[プロパティ] を選択します。[プロパティ] ダイアログの [使用中に変更] に 50 と入力します。これによって、IQ_SYSTEM_MAIN のスペースが 50MB に増えます。

図 7: [ファイルのプロパティ]



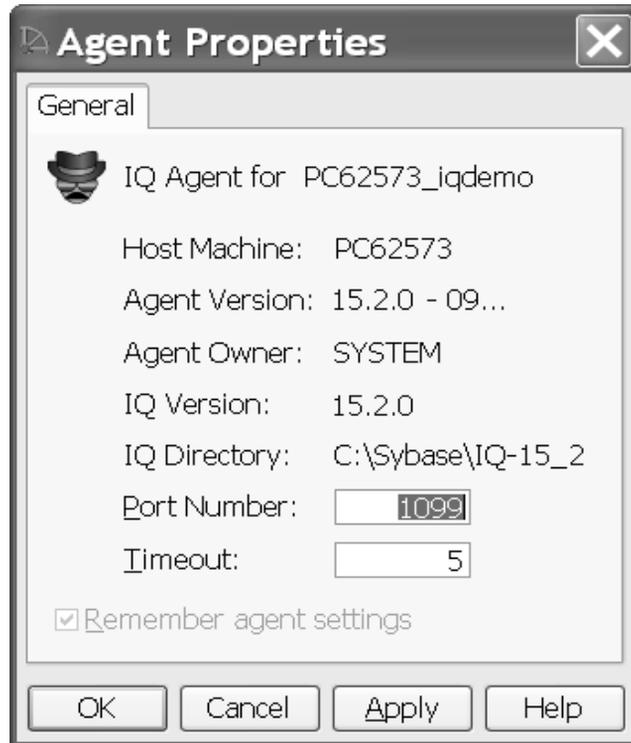
- 4 [OK] をクリックします。

- 5 フォルダ・ビューでエージェント・ポートを確認するには、[サーバ]フォルダから **iqdemo** サーバ・アイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

図 8 : *iqdemo* サーバ・プロパティ

Agent Version の横の [プロパティ] ボタンをクリックします。

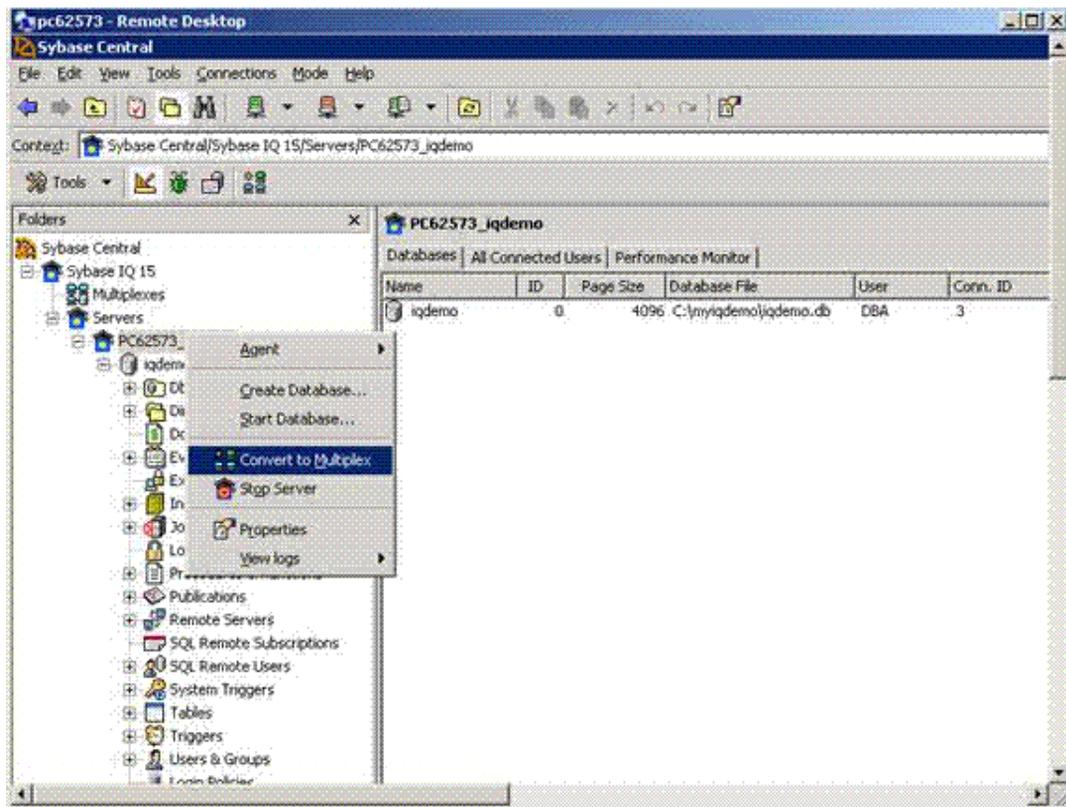
図 9 : Agent のプロパティ



エージェント・ポートがエージェントを起動したポートであるかどうかを確認します。

- 6 フォルダ・ビューの [サーバ] フォルダの **iqdemo** サーバ・アイコンを右クリックし、[Multiplex に変換] をクリックします。

図 10 : フォルダ・ビュー



7 これにより、サーバの作成ウィザードが起動します。

図 11: サーバ作成ウィザード

Create Server Wizard

Node Configuration

Specify configuration information for the new multiplex node. On a host with multiple network cards, unique names and ports may be specified for each card.

Specify the name for this new multiplex: PC62573_iqdemo_mpx

Specify the new secondary server's information:

Connection Profile: <Other>

Server Name: PC62573_iqdemo_w1

Host Information:

Hostname	Port Number
PC62573	2639

Agent Port: 1099

Mode: Reader Writer

Register new node as the designated fail-over node.

Create administrative shell scripts.

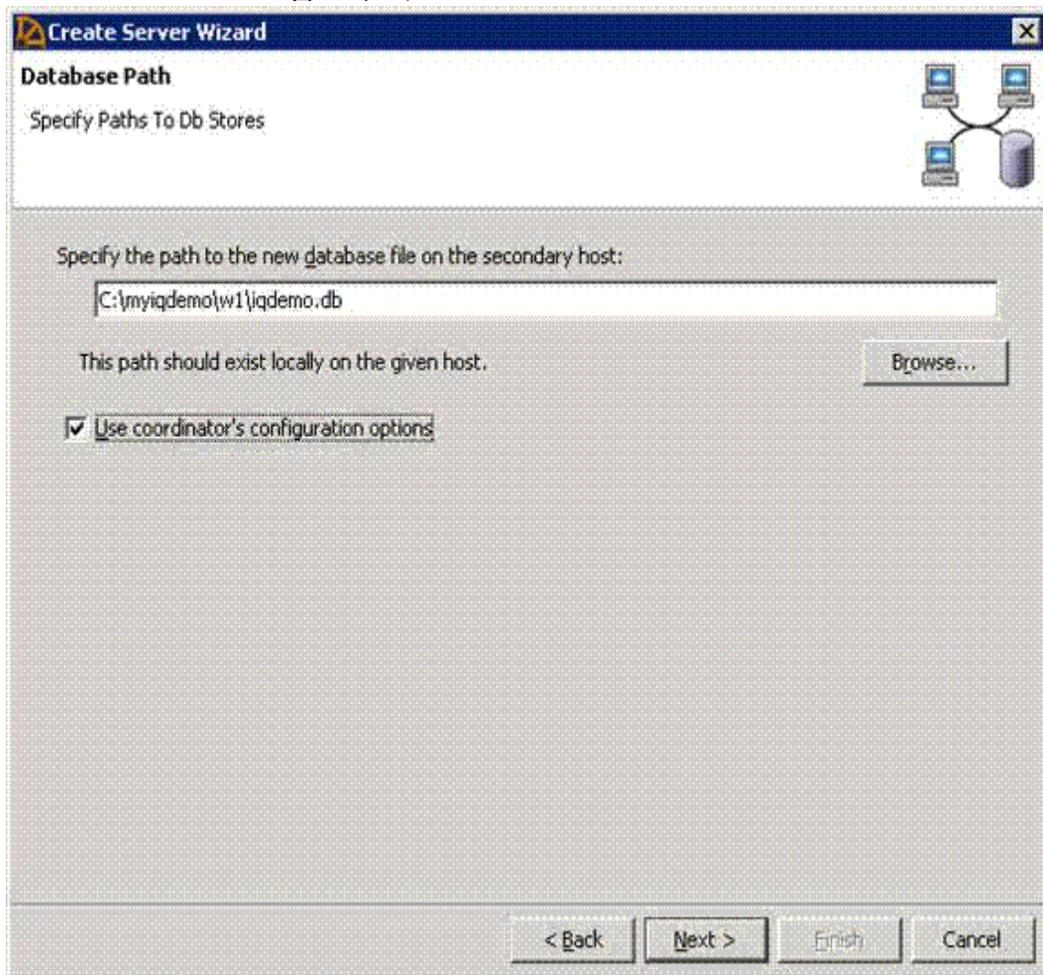
< Back Next > Finish Cancel

以下のすべてのフィールドに必要な情報を記入します。

- マルチプレックス名:
 - デフォルトは元のシングル・サーバ名になります。
 - これは、Sybase Central 内でマルチプレックスを一意に識別するのに使用するマルチプレックスの論理名です。
- サーバ名:
 - 最初のセカンダリ・サーバの名前。
 - マルチプレックスのコーディネータ・サーバになる元のサーバとは異なる必要があります。

- ホスト情報：
 - ホスト名 — デモ用に、元のサーバと同じホストを使用します。これにより、同じホスト上の複数のサーバでマルチプレックスが設定されます。実際の設定では、各マルチプレックス・サーバに対して異なるホストを使用します。
 - ポート番号 — セカンダリ・サーバにユニークなポート番号を指定します。デフォルトでは、このポート番号は元のサーバのポート番号に 1 を足した番号になります。
 - 複数のホストおよびポートのペアをここで追加し、複数のネットワーク・アドレスを持つシングル・サーバを設定できます。多くの場合、マルチプレックス・サーバは 1 つのネットワーク・アドレスのみを持っています。
 - エージェント・ポート — エージェントを起動するポートを入力します。デフォルトでは、ポートは 1099 になっています。
 - モード — [ライタ] (デフォルトは [リーダ]) を選択します。後から、データをこのノードからロードします。
 - [管理シェル・スクリプトを作成する] を選択します。
- 8 [次へ] をクリックします。カタログ・データベースのパスを選択します。このパスは、IQ デモ・データベースを作成した場所とは異なるディレクトリに指定します。demo データベースが作成されたディレクトリの下にサブフォルダを作成できます。

図 12: データベース・パス

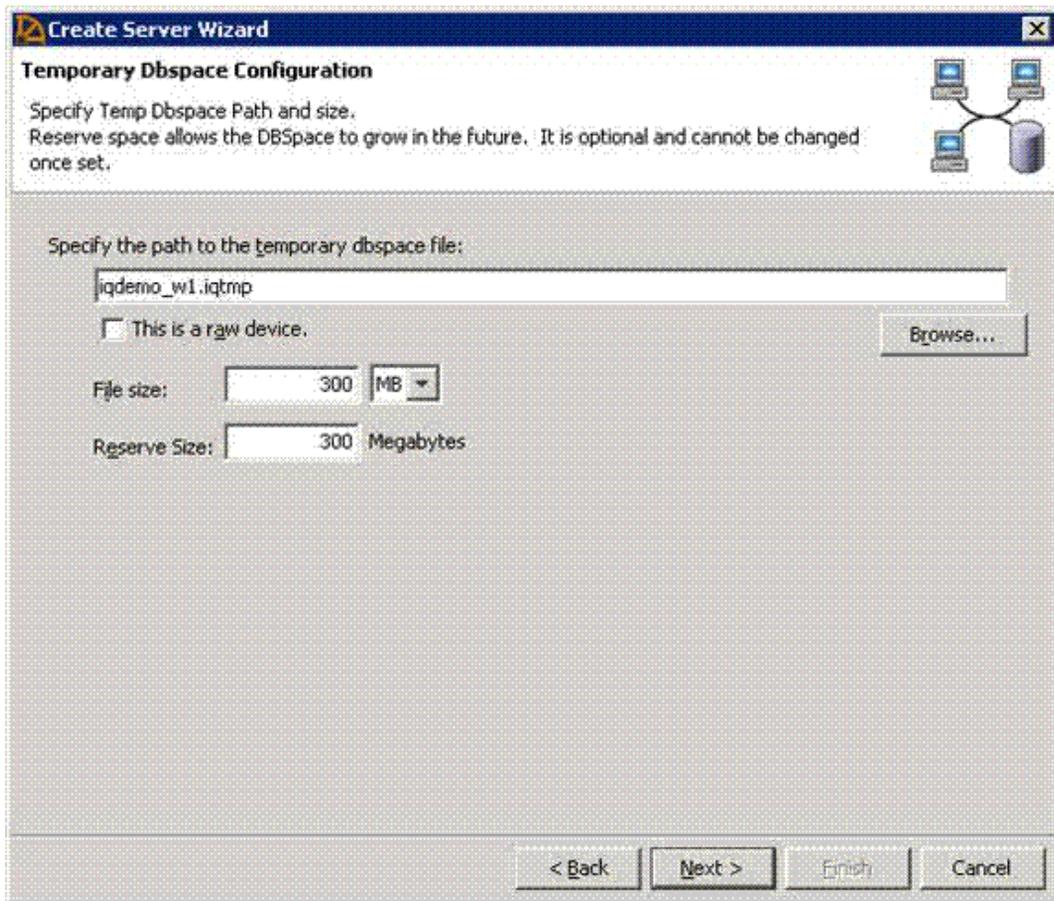


[データベース・パス] ページに情報を記入します。

- データベース・パス
 - データベース・パスは、新しいマルチプレックス・セカンダリ・サーバの *db* ファイルへの絶対パスです。
 - このパスは、既存のデータベースの *db* ファイル・パスとは異なる必要があります。Sybase では、*iqdemo.db* をファイル名として使用することをおすすめします。一般には、任意の名前を使用できます。
- [コーディネータの設定オプションを使用] を選択します。このオプションは、既存のデータベースに使用する *params.cfg* オプションを新しいマルチプレックス・サーバの *db* ディレクトリにコピーします。

- 9 [次へ] をクリックします。ディレクトリが存在しない場合は、作成を求めるメッセージが表示されたら [はい] をクリックします。[テンポラリ DB 領域設定] ページが表示されます。

図 13 : [テンポラリ DB 領域設定]

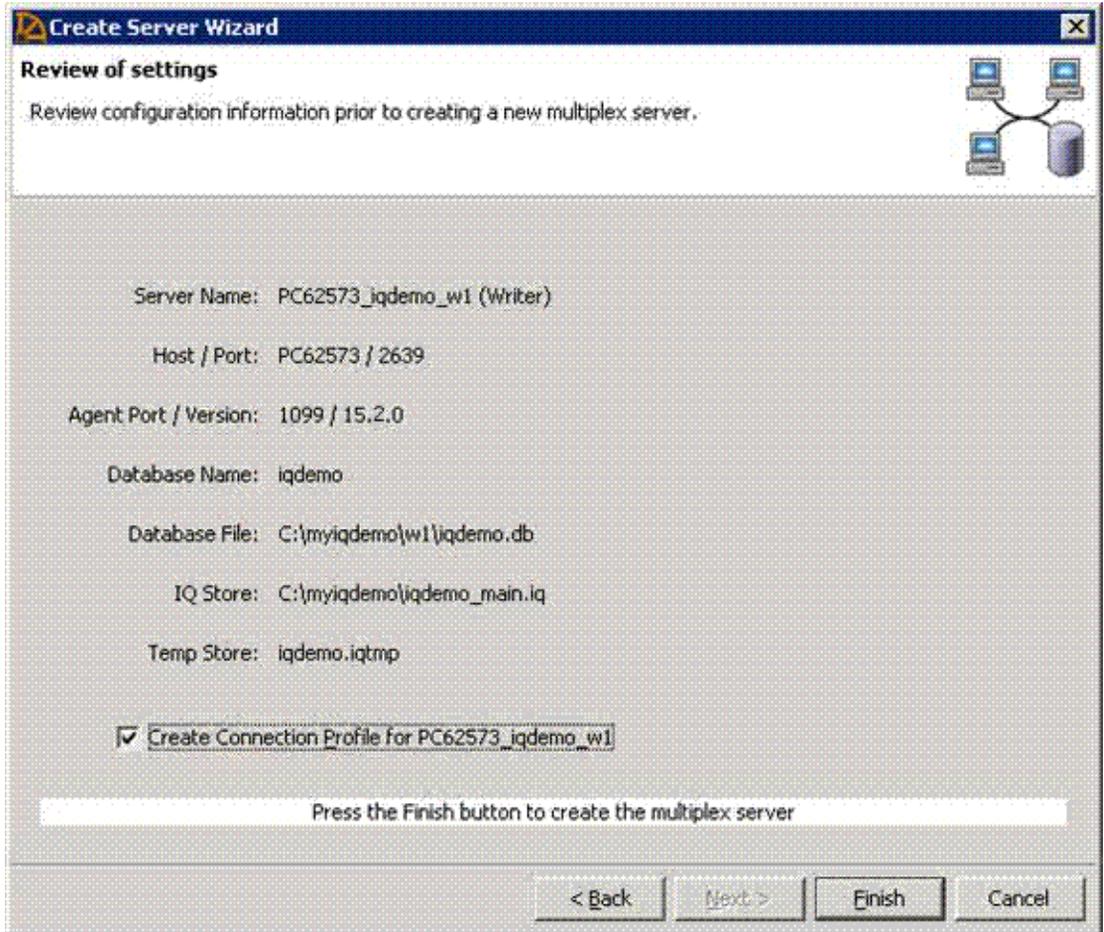


[テンポラリ DB 領域設定] ページに情報を記入します。

- テンポラリ dbspace のファイル・パスは *iqdemo_w1.iqtmp* です。テンポラリ DB 領域のファイル・パスには、データベース *.db* ファイル・パスに対して絶対的なものと相対的なものがあります。一意なファイル名を選択します。
- [これはロー・デバイス] – 選択しないままにします。
- ファイルのサイズは 300MB です。
- 予約サイズは 300 です。

10 [次へ]をクリックします。設定を確認します。

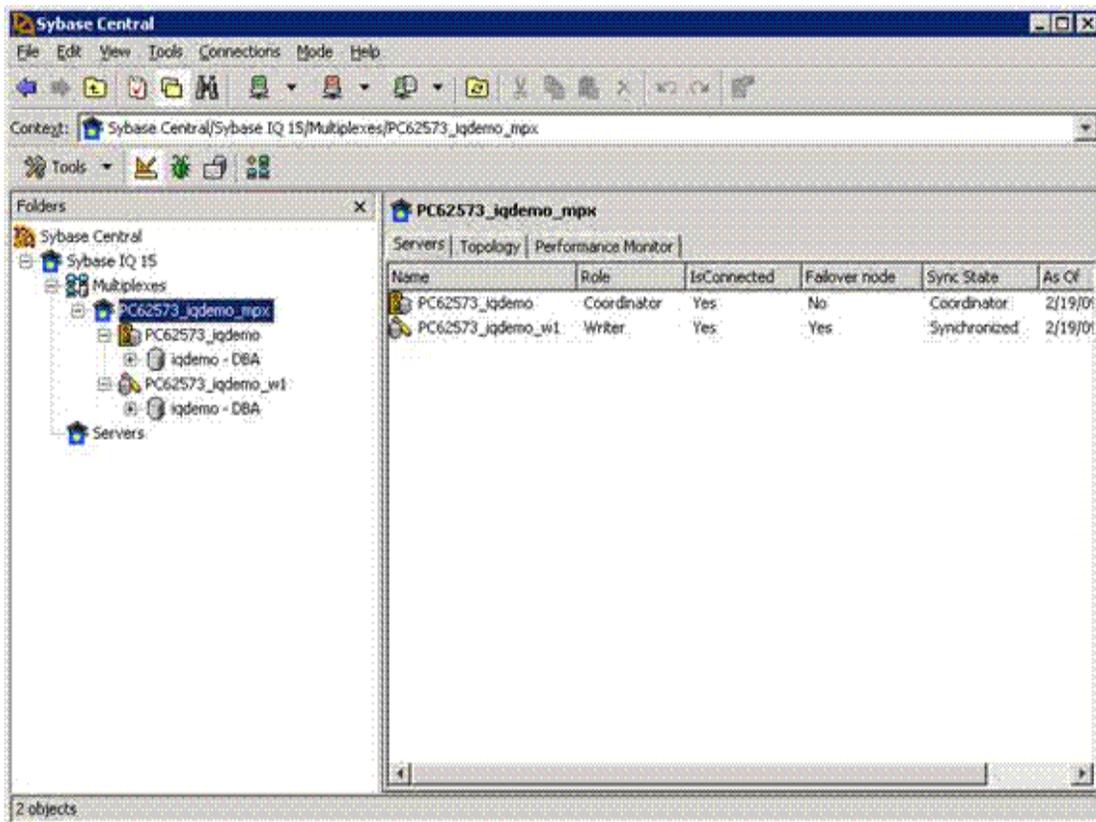
図 14 : 設定の確認



- 11 [完了] をクリックします。これにより、新しいマルチプレックス・セカンダリ・サーバ・ファイルが作成され、マルチプレックス用のデータベースが設定されます。この操作には数分かかる場合があります。

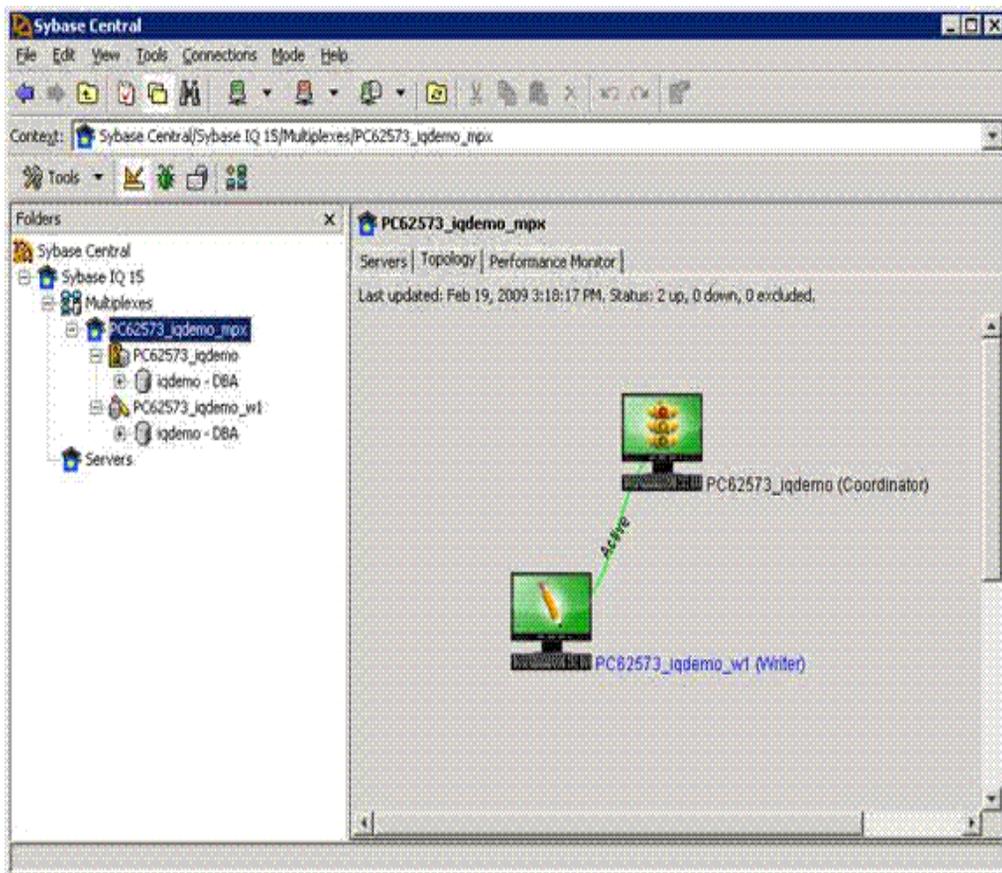
Sybase Central の [フォルダ] ビューでは、マルチプレックス名が [マルチプレックス] フォルダに挿入されていることに注意してください。マルチプレックス名を展開すると、マルチプレックス内のサーバを表示できます。

図 15 : Sybase Central マルチプレックス・サーバ



- 12 Sybase Central のメイン・ウィンドウで、[トポロジ]タブをクリックすると、マルチプレックス・トポロジ・ビューが表示されます。これは、マルチプレックス設定をグラフィカルに表示したものであり、各サーバおよびサーバ間の通信リンクのステータスが表示されます。ほとんどのマルチプレックス操作はこのビューまたはサーバ・ビューから実行できます。

図 16 : [トポロジ]タブ



マルチプレックス・サーバの追加 (手動による方法)

現在のマルチプレックス設定には、コーディネータ・サーバと1台のマルチプレックス・ライタ・サーバという2台のサーバが含まれています。この項の手順に従うと、リーダーの役割で2番目のサーバを手動で追加できます。新しいサーバは、PC62573_iqdemo_r2 といいます。

Interactive SQL を開きます。[ファイル]-[サーバの追加] を選択して、Sybase Central でサーバの作成ウィザードを起動することもできます。

次の手順は、マルチプレックス・サーバを手動で作成する場合に必要です。サーバの作成ウィザードを使用する場合、これらの手順は Sybase Central によって自動的に行われます。

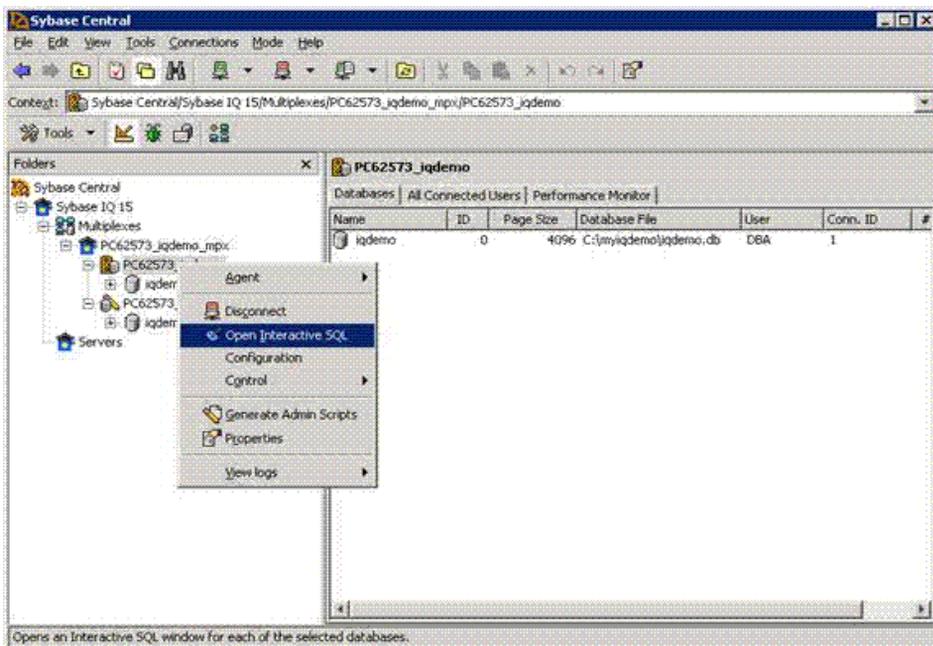
マルチプレックス・サーバ定義の作成

データベース・システム・テーブル SYSIQMPXSERVER でマルチプレックス・サーバを定義します。

❖ マルチプレックス・サーバの手動による定義

- 1 Sybase Central の [フォルダ] ビューから、Interactive SQL を起動します。

図 17 : Interactive SQL の起動



2 Interactive SQL で、以下の情報を含んだ次のコマンドを実行します。

- DATABASE
 - PC62573_iqdemo_r2 サーバのファイルを含むローカル・ディレクトリのフル *db* ファイル・パス。
 - 正しいパス。不正なパスは新しいマルチプレックス・サーバを同期するまで検出されません。
- HOST – ローカル・ホストの名前。
- PORT – ローカル・ホスト上のユニークなポート番号。このデモの規則に従って、ポート 2640 を使用します。

UNIX の場合

```
CREATE MULTIPLEX SERVER SUN62574_iqdemo_r2 DATABASE
'/myiqdemo/r2/iqdemo.db' ROLE READER HOST 'SUN62574'
PORT 2640
```

Windows の場合

```
CREATE MULTIPLEX SERVER PC62573_iqdemo_r2 DATABASE
'C:\myiqdemo\r2\iqdemo.db' ROLE READER HOST 'PC62573'
PORT 2640
```

- 3 [Play] アイコンをクリックするか [F5] キーを押して、コマンドを実行します。
- 4 すべてのサーバの新しいマルチプレックス設定を表示するには、次の出力を生成する `sp_iqmpxinfo` ストアド・プロシージャを実行します。

図 18 : iqdemo (DBA)

server_id	server_name	connection_info	db_path	role	status	mpx_mode	inc_state
1	PC62573_iqdemo	host=10.18.60.119:2638	C:\myiqdemo\iqdemo.db	coordinator	included	coordinator	N/A
2	PC62573_iqdemo_w1	host=PC62573:2639	C:\myiqdemo\w1\iqdemo.db	writer	included	writer	active
3	PC62573_iqdemo_r2	host=PC62573:2640	C:\myiqdemo\r2\iqdemo.db	reader	included	unknown	timed out

マルチプレックス・サーバの同期と起動 (手動による方法)

コーディネータのカatalog・ストアから *db* ファイルを生成し、新しく作成したリーダ・サーバのディレクトリにコピーしてから、新しいサーバを起動します。

または、マルチプレックス・サーバ・アイコンを右クリックし、[コントロール]-[同期]を選択して、この操作を行うこともできます。

❖ マルチプレックス・サーバを手動で起動するには、次の手順に従います。

- まだ作成されていない場合は、マルチプレックス・サーバ・ディレクトリを作成します。このデモの規則に従い、マルチプレックス・ディレクトリは次の場所にあります。
 - UNIX の場合 - `/myiqdemo/r2`
 - Windows の場合 - `C:\myiqdemo\r2`
- 新しく作成したマルチプレックス・サーバ・ディレクトリに変更します。
 - UNIX の場合 - `cd /myiqdemo/r2`
 - Windows の場合 - `cd C:\myiqdemo\r2`
- 存在しない場合は、コーディネータのディレクトリから *params.cfg* をリーダのディレクトリにコピーします。

- 4 以前のトランザクション・ログ・ファイル (*mpx.log* など) がディレクトリに存在する場合は、削除します。同期後にマルチプレックス・サーバ・ディレクトリに古いトランザクション・ログを残しておくと、サーバが起動しない場合があります。
- 5 コマンド・ラインから、次のコマンドを実行し、新しいマルチプレックス・サーバに適したパス名、ホスト名、およびサーバ名に置き換えます。以下の各コマンドを1行に入力します。

- **UNIX** の場合

```
dbbackup -y -d -c
'uid=DBA;pwd=sql;eng=SUN62574_iqdemo;links="tcpip{host=
SUN62574;port=2638}"' .

rm -rf "iqdemo.log"

dblog -r -t "iqdemo.log" "iqdemo.db"

start_iq @params.cfg
-n SUN62574_iqdemo_r2
-x "tcpip{host=SUN62574;port=2640}" iqdemo.db
```

- **Windows** の場合

```
dbbackup -y -d -c
"uid=DBA;pwd=sql;eng=PC62573_iqdemo;links=tcpip{host=
PC62573;port=2638}" .

erase /F /Q "iqdemo.log"

dblog -r -t "iqdemo.log" "iqdemo.db"

start_iq @params.cfg
-n PC62573_iqdemo_r2
-x "tcpip{host=PC62573;port=2640}" iqdemo.db
```

通常、`dbbackup` には ODBC DSN を使用し、設定ファイルを編集し、リンク情報と設定ファイル内のサーバ名を追加して、サーバを起動します。

注意 手順 3 ~ 5 を行う間に 60 分以上の遅延が発生すると、サーバが起動しない場合があります。これは、`MPX_AUTOEXCLUDE_TIMEOUT` のデフォルト値が 60 分に設定されているためです。

問題を修正するには、コーディネータに接続し、`ALTER MULTIPLEX SERVER <new-server> STATUS INCLUDED` を使用して新しいサーバを含むようにします。この後、再同期し (`dbbackup` および `dblog` を実行し)、サーバを再起動します。

- 6 サーバが実行されていることを確認するには、Interactive SQL を使用してサーバに接続します。

テンポラリ・ストア・ファイルの追加 (手動による方法)

この手順に従うと、セカンダリ・ノードのテンポラリ・ストア・ファイルが追加されます。テンポラリ・ストア・ファイルを追加するまでは、IQ データでクエリを実行することはできません。テンポラリ・ストレージがさらに必要な場合は、必要に応じてこの手順を繰り返し、テンポラリ・ストア・ファイルを追加します。この操作を実行するには、コーディネータ・ノードとセカンダリ・ノードの両方を実行する必要があります。

❖ テンポラリ・ストアの追加

- 1 Interactive SQL を使用して、リーダに接続します。
- 2 次のコマンドを実行し、適切なファイル・パスに置き換えます。テンポラリ・ストア・ファイル・パスは、各サーバまたはホストに一意的なパスである必要があります。パスは、各マルチプレックス・サーバ用に個別の物理ファイルを解決する限りは、絶対パスでも相対パスでもかまいません。

- **UNIX** の場合

```
ALTER DBSPACE IQ_SYSTEM_TEMP ADD FILE
iqdemo_r2_temp 'iqdemo_r2_temp.iqtmp'
SIZE 300 RESERVE 300
```

- **Windows** の場合

```
ALTER DBSPACE IQ_SYSTEM_TEMP ADD FILE
iqdemo_r2_temp 'iqdemo_r2_temp.iqtmp'
SIZE 300 RESERVE 300
```

`sp_iqdbspace 'IQ_SYSTEM_TEMP'` を実行して、リーダに空きテンポラリ領域が確保されていることを確認します。

データのロード

この項では、コーディネータとライタを使用して、データをマルチプレックス・データベースにロードします。ワークロードが複数のサーバに分配されるため、これはマルチプレックス・リソースの最も効果的な使用方法です。このデモでは、異なるサーバを連続で使用してデータをロードします。実際の運用では、複数のサーバから個別のテーブル上のロードを並行して実行できます。

このデモでは、IQ 15.2 に同梱のロード・ファイルを用いて、Contacts および SalesOrderItems テーブルを使用します。

UNIX では、これらのファイルは \$IQDIR15/demo/adata にあります。

Windows では、これらのファイルは %ALLUSERSPROFILE%\¥SybaseIQ¥demo¥adata にあります。

適切なパスを以下の LOAD 文にある入力ファイルに置き換えます。

❖ コーディネータからのデータのロード

- 1 Interactive SQL を使用して、コーディネータ・サーバ PC62573_iqdemo に接続します。
- 2 Contacts テーブルでは、demo データベースの作成中に同じデータがロードされるため、このテーブルをトランケートします。
- 3 Contacts テーブルをロードします (ファイル・パスを次に示した方法でなく、1 行に入力します)。

UNIX の場合

```
TRUNCATE TABLE Contacts;

LOAD TABLE Contacts (ID, Surname, GivenName,
Title, Street, City, State, Country, PostalCode,
Phone, Fax, CustomerID)
USING FILE '/sun62574/users/userid/
/syb_install_dir/IQ-15_2/demo/adata/contact.dat'
ROW DELIMITED BY '|'
ESCAPES OFF;

COMMIT;
```

Windows の場合

```
TRUNCATE TABLE Contacts;

LOAD TABLE Contacts (ID, Surname, GivenName,
Title, Street, City, State, Country,
PostalCode, Phone, Fax, CustomerID)
USING FILE
'C:¥Documents and Settings¥All Users
¥SybaseIQ¥demo¥adata¥contact.dat'
ROW DELIMITED BY '|'
ESCAPES OFF;

COMMIT;
```

❖ **ライタからのデータのロード**

- 1 Interactive SQL を使用して、ライタ・サーバ PC62573_iqdemo_w1 に接続します。
- 2 SalesOrderItems テーブルでは、demo データベースの作成中に同じデータがロードされるため、このテーブルをトランケートします。
- 3 SalesOrderItems テーブルをロードします (ファイル・パスを次に示した方法でなく、1 行に入力します)。

UNIX の場合

```
TRUNCATE TABLE SalesOrderItems;

LOAD TABLE SalesOrderItems (ID, LineID,
ProductID, Quantity, ShipDate)
USING FILE '/sun62574/users/userid/
/syb_install_dir/IQ-15_2/demo
/adata/sales_oi.dat'
ROW DELIMITED BY '|'
ESCAPES OFF;

COMMIT;
```

Windows の場合

```
TRUNCATE TABLE SalesOrderItems;

LOAD TABLE SalesOrderItems (ID, LineID,
ProductID, Quantity, ShipDate)
USING FILE 'C:\Documents and Settings\All Users\
SybaseIQ\demo\adata\sales_oi.dat'
ROW DELIMITED BY '|'
ESCAPES OFF;

COMMIT;
```

データがデータベースにロードされたので、マルチプレックス内のサーバからデータに対してクエリを実行できます。このベース・マルチプレックスを使用して、他にもさまざまな試みを行うことができます。また、別の操作を実行しようとする場合は、iqdemo スクリプトを調整することで、別の操作の実行方法を試すこともできます。

注意 ソフトウェアのインストールまたは実行に関する質問については、Sybase テクニカル・サポートまたは最寄りの Sybase のサポート・センタまでご連絡ください。
